しています。

この長い活動の間に、多くの共通の先達を失いました。とくに八木三男所長は私と同学年でもあったことから親しくして頂きました。あの頑固な、そして巾広い教養が、研究所を支えてきたところも大きかったと思います。しかし、地域には人材がたくさんいます。まだ知られていない新しい人物もかならずでてくるものです。新しい時代にふさわしい活動を期待しています。

（ほりお　てるひさ・民主教育研究所代表）

にいがた県民教育研究所に期待するもの

―市民的教育共同論の発展を―

三輪　定宣

『にいがたの教育情報』１００号の発行おめでとうございます。

にいがた県民教育研究所の発足以来の会員として、また、その間、機関誌に２０本近くの論考を寄稿させていただいた者として、１００号の発行は感慨深く、これまでに尽くされた研究所関係各位のご献身に感謝と敬意の念を禁じ得ません。

私は、前所長の遺稿集『八木三男教育論集・新潟から日本の教育をみる―市民立教育研究所の理念と展開―』（神林印刷、２００９年１月）の書評（本誌９８号、０９年９月）で、その全編を貫く基調を「市民的教育共同論」と表現しました。それは、故八木所長の願望にとどまらず、研究所が新潟の地域に根ざし一貫して追究してきた教育研究の理念であり、２１世紀の教育研究活動の指針としていよいよ輝きを増すのではないかと考え、期待しています。

しかしながら、組織や権威から自立した会員制研究所は、市民的教育共同のセンターにふさわしい組織形態である反面、支持者の獲得、経費の確保、活動の発展などさまざまな面で多大の困難を免れません。それを乗りこえ、研究所２５年の年輪を刻み得たのは、会員諸氏のご支援はもとより、研究所の皆様の並々ならぬご努力によるものであり、特に１００号を数える毎号の機関誌編集に注がれた所員の熱意、叡智の賜と存

じます。

この到達点を節目として新たな時代の課題に挑戦し、この魅力ある機関誌の発行を基軸に、市民的教育共同の輪を県内外に発信してくださるよう研究所のいっそうの発展を祈ってやみません。

（みわ　さだのぶ・千葉大学名誉教授）

各地の教育研究所から

新潟の、教育における「固有の発達系」を編み直していく道しるべ

金森俊朗

にいがた県民教育研究所による編集・発行誌・季刊『にいがたの教育情報』１００号達成、本当におめでとうございます。「情報」と命名されているものの地域の課題についての調査研究報告・提言、政策批判、独自の研究集会報告、教育実践・運動報告と分析、資料などまさに「教育という文化を扱う協同組合」（八木三男）ならではの重厚な誌です。他の地域教育研究所を圧倒する会員数を維持拡大できるのは、この誌が会員をつなぎ、働き生きる希望の灯台になっているからでしょう。新潟の、教育における「固有の発達系」（長崎明）を編み直していく道しるべになっているからでしょう。

季刊として編集発行してきたスタッフのご努力に敬服するとともに、読者として常々多くの示唆を与えられていることに感謝申し上げます。

我々のセンターは貴研究所から学んで設立しました。さらに『情報』をモデルに「センター付属民主教育研究所年報」として『教育・共同・地域』を９２年に創刊しました。我々の大先輩として２００号目ざしてさらに充実、継続されることを願っています。

（かなもり　としろう・いしかわ県民教育文化センター所長）